

山口県にもある活火山「笠山」

「ほっとやまはく」
タイム⑦④



前回の地学のお話は火山についてでした。お話の最後に、笠山のスコリアの色が赤っぽいのはなぜでしょう、と問題を出していましたね。鉄の赤さびの色みたいだなと思った人はナイスです。スコリアとは、火口から噴出したマグマが、ガスが抜け出ながら空中で冷えて固まる時にでき

たスカスカの軽石でしたね。1000度を超えるマグマが噴出して固まったものなので、固まったばかりのスコリアはまだまだ高温の状態で。この高温のスコリアが空気中の酸素によって十分に酸化されると、スコリアに含まれていた鉄分から赤鉄鉱という赤い色の鉱物ができます。そのため、全体としてこんな色になるのです。笠山の外観のポコッとした部分はスコリアが降り積もってできたスコリア丘で、笠山の山頂から火口を降りていくと、スコリア丘の内側を見ることが出来ます。スコリアが降り積もったときにスコリア同士が自身の重さと高温のためちょっと溶けてくっつきあっている様子や、スコリアが傾斜して降り積もっている様子を観察することができます。

笠山の溶岩

笠山のスコリア



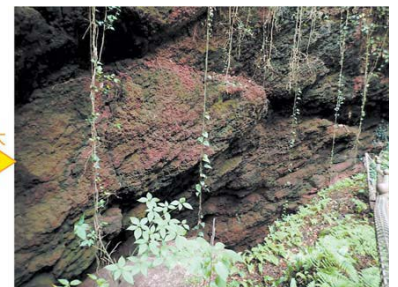
溶岩流の跡

溶岩の表面



海岸では、火口から流れ出た溶岩を見ることが出来ます。海岸を歩いていると、内陸から海の方へ延びる溶岩流の跡がたくさん見られます。笠山の溶岩は玄武岩質安山岩で、安山岩にしては比較的粘り気が小さかったようであり、火口から出た溶岩は高さが低い方へと流れていきました。固まった岩石の表面は穴がいっぱい開いているので、ガスが抜けた

スコリア丘の内側



跡だと分かります。

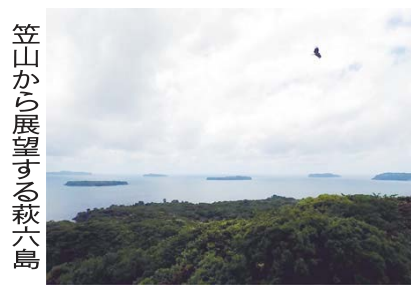
変わった形の火山

笠山の山頂には展望台があります。そこから日本海を望むと平べったい台地状の六つの島々が目に入ります。写真の右から大島、櫃（ひつ）島、肥島、尾島、羽島、相島で、萩六島とよばれており、それぞれが独立した火山です。

火山がどんな形になるのかは、噴出するマグマの成分が大きく関係しています。マグマ

の粘り気が大きいところもりと盛り上がった形になり、粘り気が小さいと溶岩が流れるため平べったくなりま

す。時々、ハワイ島やアイスランドの火山噴火のニュースの中で、溶岩が流れている様子を見ることがありますが、それが粘り気の小さい溶岩流です。



笠山から展望する萩六島

イ素含有量が少ないと玄武岩質、多いと流紋岩質、その間が安山岩（デイサイト質と呼ばれます。ということであれば、萩六島は平べったい形をしているので、どれも粘り気の小さいマグマが噴火してできた火山、つまり岩石の種類は玄武岩かなと想像することが出来ます。

しかし、そこは一筋縄ではいかないとこ

ろ。玄武岩でできた島が台地状というのはよくあることであり、それは溶岩台地とよばれ、別に「変わった形」ではありません。実は、玄武岩でできた島は羽島だけで、あとの五つの島は安山岩です。安山岩はマグマの成分としては比較的粘り気が大きい方なので、火山の形としてはこんもりした溶岩円頂丘になるはずですが、なぜか五つの島のマグマは粘性が低く、平べったい形になっています。この変わった形の火山は、溶岩平頂丘とよばれています。

さて、笠山という活火山について2回にわたってお届けしてきました。笠山は裾野から山頂まで見どころ満載です。一度訪れて火山を堪能してみてはいかがでしょうか。

赤崎英里（学芸課主任・地学担当）
▽次回は16日です。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。

